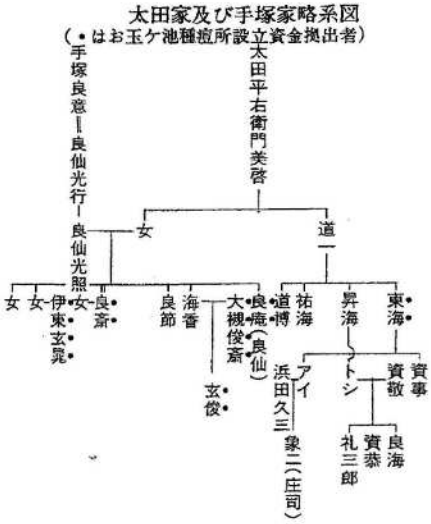
柿生文化

平成２２年６月２５日
川崎市立柿生中学校
柿生郷土史料館　情報・研究誌
第２４号

溝口村の蘭方名医 太田道一・東海 父子

江戸後期 天然痘予防接種で活躍
東海は手塚良庵（手塚治虫の祖父）のいとこ

今では、ほとんど聞かなくなりましたが、一昔前は天然痘（痘瘡）といいますと大変恐い伝染病のひとつでした。この原因は、江戸時代後半までよく分かりませんでした。やがて伝染病であることが分かり、イギリスのジェンナーにより、「牛痘」（牛に発症する伝染病）に罹った牛の膿（うみ）を人間の体に植え付けると発症しないこともわかりました。

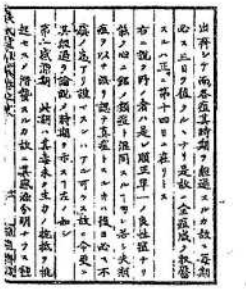


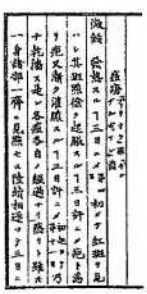
日本には、嘉永２年（1849年）にこの方法が伝えられ、蘭方医によって広められることになりました。しかし、人々は、この方法をなかなか信用せず、随分と苦労をしたといわれています。

さて、川崎市高津区溝口の大山街道に面した所に居を構えていた太田道一、東海 父子は幕末から明治にかけて溝口周辺の村の人々に種痘を施し多くの命を救いました。

太田道一は良海と号し寛政１０年（1798年）下作延村に生まれ、江戸小石川の手塚良仙（良庵の父）のもとで蘭方医学を３年間修業し文政１１年（1828年）溝口村に開業しました。下の写真「扶氏経験遺訓」（緒方洪庵の訳した西洋医学書）などはこの頃勉強した書物の一部です。また、漫画家手塚治虫の祖父 手塚良庵は道一の甥にあたり手塚の作品『陽だまりの樹』は祖父 良庵の姿を描いたものでした。

道一が溝ノ口村で種痘を開始したのは、安政５年（1858年）頃と思われます。方法は日を定めて種付けを行ない７日目に感染したか検査が行なわれました。（人間に植え付ける病原菌は、牛に発症したもので人間には多少の発熱がある程度ですが、これにより人体に天然痘の免疫力が生まれる）接種当日は大変な混みようで門前には屋台の店が並んだそうです。子の東海は、嘉永２年（1849年）大槻俊齊のもとで蘭医学を修め、安政４年（1857年）種痘所の設立に尽くし優れた蘭方医として江戸にも名を響かせていました。





（参考資料：「川崎の蘭方医家太田家の事蹟」）

（緒方洪庵の訳した「扶氏経験遺訓」：西洋医学書の訳本）

天明７年(1789年)１２月　王禅寺村鉄砲に関する事件始末記

江戸時代は、農民の鉄砲所持が禁止されていました。しかし、王禅寺村などでは、猪・鹿などの出没により田畑が荒らされるため、特別に鉄砲の所持を認められていました。

（王禅寺村入会地－共同使用の土地－の絵図）

ただ、認められているといいましても、王禅寺村では享保１４年(1729年)に「鉄砲御免」（鉄砲所持の許可）となって以来、毎年２月に鉄砲３挺を名主・年寄（村役人のひとつで名主の補佐役）の厳重保管の条件で借り受け、１２月には返却することになっていました。

さて、天明７年(1789年)１２月、この鉄砲をめぐり、王禅寺村のある一家が崩壊するという大変不幸な事件が発生しました。

事件は、王禅寺村の百姓 新蔵 ５６歳、そして妻むめ４１歳長女かよ(17歳)・次女ゆく(13歳)・三女のべ(9歳)の５人家族に起きました。

当時の記録によりますと、父の新蔵は、大変な正直者でした。ところがこの年の１２月１日、道端で鉄砲を拾い、なぜか村役人には届け出ず家に隠しておいたそうです。

やがて、１２月２７日朝五つ時（午前7時~9時）頃、麦畑に猪・鹿が現れ作物を食い荒らしはじめたので新蔵は隠しておいた鉄砲をもってきてこれを撃ち、さらに傷ついた鹿を追って山伝いに山田村（現、横浜市都筑区）まで来ましたが見失ってしまいました。

山田村は御鷹狩り（将軍の狩猟）にかかわる地域で一般の人は狩猟禁止でした。そんな所に、たまたま運悪く山田村の名主 市郎左衛門父子が通りかかり、不法の鉄砲を所持する新蔵を見てこれを捕らえました。さらに悪いことに前方の水田に二羽の鴨が殺されており、その周りを、鳶（とび）やカラスが群れていました。市郎左衛門は新蔵の仕業と考え彼を綱島村にある役人に連絡しました。

翌２８日、取り調べがおこなわれました。罪状は、①不法に鉄砲をもっていた。②狩猟禁止区域で水鳥を射殺した。ということでした。新蔵は、この罪状に対して、一言も言い訳をしなかったようでした。新蔵は、そのまま名主の市郎左衛門に預けられ幕府の奉行の命令を待つこととなりました。

年が改まり１月１１日、江戸の勘定奉行から呼び出しがあり、市郎左衛門は新蔵を連れて江戸糀町の役所の宿舎に入り出頭命令を待っていました。ところが１月１５日ともあろうに市郎右衛門が居眠り中に新蔵が逃げ出してしまったのです。

当時は、被告人が逃げ出した場合１８０日間捜査し、なお発見されない場合は、「永尋（ながたずね）」といい無期限の「お尋ね者」となるわけです。それだけではなく関係者も罰せられています。結果としては、①新蔵の屋敷は没収　②捜索をした新蔵の親戚筋の者罰金銭３貫文　③市郎左衛門は取り逃がしで３貫文　④田畑家財道具は没収　⑤妻・子供は親戚預かり。なお、新蔵は逃亡したまま発見されませんでした。

（「骨し鉄砲」鵜志田勝治氏　寄贈　柿生中学校　所蔵）

（参考文献：「麻生区の原風景」）

―― 柿生・岡上地名考Ⅲ ―― 岡上

歴史と文化の里　岡上

昔、岡上村は「おかのぼり村」といったといわれています。近くの小野路村の古文書には、すべて「岡上り村」と書かれていたそうで「おかのぼり村」と呼んでいたに違いないと思われます。

（岡上の字：あざ）

江戸時代に編纂された「新編武蔵風土記稿」には「岡上氏ノ住セシ所ナトニヤ」「岡上系図ニ岡上豊前藤原景行　武蔵ノ国ニ生ル」等と書かれており岡上の由来等が書かれています。。

また、今の岡上小学校の建設現場から発見された岡上丸山遺跡からは、奈良～平安期のもので「岡」の文字が書かれた墨書土器が発見されています。このことから考えても随分と古い時代から「岡上」の文字が使われていたようです。

さて、岡上には約１４の字（あざ：村を細かく分けた単位で大字がありさらに小さく分けた範囲を字という）があります。

「川内（かわち）」は、鶴見川の北岸で能ケ谷に接するところで「谷に挟まれた平らな場所」という意味からつけられたものと思われます。

岡上橋の東南辺りは**「開戸（かいと・けーと）」**と言われますが、全国的に山間の小平地によく使われます。本来は、豪族や百姓が自宅のまわりを掘って耕地とした場所のことを言います。

「関（せき）」は「堰アル故ニ此ノアリ」と新編武蔵風土記稿には書かれています。鶴見川の堰の周辺であったものと考えられます。

「自性寺（じしょうじ）」は、新編武蔵風土記稿には「天正の水帳にこの名を見たがいつの頃廃したのでしょうか」と書かれています。現在、この寺院は存在しません。

「小塚（こずか）」一般的に「塚」は古墳や土葬した墓をさすことが多いですが明確な由来は不明です。墳墓などがあったことは間違いないと思われます。

「宝殿（ほーでん）」位置は、ほぼ村の中心にあたる地域になります。地名の由来は不明ですが、昔、宝殿稲荷社が岡上２４８番地付近にあったといわれていますが「宝殿」という語に何か引っ掛かります。近くの東光院に関する塔頭（たっちゅう）や宝物殿、または「法殿」であれば、お経を収めていた建物があったということも考えられます。あるいは、近くにある阿部ノ原には奈良後期から平安初期にかけてかなりの力をもっていたと思われる岡上廃寺に関するものであることも考えられ今後の研究に待たれるところです。

「杉山（すぎやま）」「杉山下（すぎやました）」の杉山は、杉の木が多く繁茂していた地域と考えられるが、鶴見川流域にに多くみられる杉山神社との関係も考えられます。ただ新編武蔵風土記稿には杉山神社の記述はありません。

（東光院「兜跋毘沙門天立像」）

川崎・横浜各種博物館特別展

川崎市民ミュージアム

「絵図でめぐる川崎」
～失われた景観をさぐる～

◎期間　７月１７日（土）～９月５日（日）

◎内容　川崎の江戸時代の絵図を現在の地図や航空写真をもとに比較し、失われた川崎の景観を探ります。柿生地域の史料がたくさん公開されます。

横浜市歴史博物館

「古墳時代の生活革命」

◎期間　６月５日（土）～７月１１日（日）

◎内容　横浜市都筑区矢崎山遺跡から発見されたカマドや須恵器、鉄器は朝鮮半島の渡来人を通して伝えられた高度な生活文化で、鶴見川流域文化の高さを示しています。

柿生郷土史料館からのお知らせ

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

今年、完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料（古文書や生活道具類）でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしくお願いいたします。

このような史料はありませんか

◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵図」
◎江戸時代の「高札」（慶応４年の太政官布告「五榜の掲示」など）
◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
◎明治期発行の「地券」　◎明治期の「自由民権運動」史料
◎明治・大正・昭和（戦前・戦中）の「国定教科書」・「新聞」
◎小型の農具「千歯こき」「備中鍬」「からさお」
◎各時代の「古銭」「生活古民具」（矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など）
◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。
柿生中学校　０４４－９８８－０００４　黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。